



施設栽培の小ねぎ



露地栽培の青ねぎ



小ねぎ，青ねぎ生産の取り組み

○小ねぎ

涌谷町では、天候に左右されない新しい農業形態としてパイプハウスを活用した施設園芸に関心が高まっていました。平成9年から始まったほ場整備事業により大型野菜団地が造成されたことにより、新たな品目として小ねぎ栽培が始まりました。

生産者による「仙台小ねぎ部会」の設立など順調に面積の拡大が進み、平成30年作付面積は17.8haとなっています。

○青ねぎ

近年、水田の有効利用と農業所得の向上を目的に導入が始まりました。青ねぎは露地栽培で、年3回収穫が可能であり、収量・収益が見込まれる品目として作付面積の拡大を図り平成30年作付面積は4.1haとなっています。青ねぎは主に西日本で栽培、消費されていましたが、消費の拡大に伴い、東北地方での栽培も増えています。平成29年7月に青ねぎ集出荷調製施設（大崎市鹿島台）が完成し稼働しています。